

令和5年9月5日

高温等に伴う主要農作物の当面の技術対策について

福島県会津農林事務所

< 水 稻 >

出穂期は、平年より2～3日早まり、また、出穂後、高温が続いているため、刈取り時期が早まっています。刈遅れると、胴割れ等が発生し品質低下につながります。適期刈取りで、高品質な玄米を生産しましょう。

(1) 積算気温による刈取予測

出穂後の積算気温から、収穫適期を予測しましょう。

表1を参考に、おおよその予定を立て、落水や収穫作業に関わる機械、施設の準備をしましょう。今年は、出穂、登熟とも早まっているので、ほ場の確認と共に、早めの準備を心がけましょう。

表1 出穂後の積算気温による収穫適期の目安

地域別	品種名	出穂期	刈取適期積算気温	刈取り適期
平坦部	ひとめぼれ	7月31日	950～1050℃	9月3日～7日
	天のつぶ	8月4日	950～1150℃	9月8日～17日
	コシヒカリ	8月6日	1000～1100℃	9月13日～18日
山間部	ひとめぼれ	8月7日	950～1050℃	9月18日～22日
	里山のつぶ	8月4日	1000～1250℃	9月16日～30日

※平坦部はアメダス若松、山間部はアメダス猪苗代のデータを使用。

※出穂期は農業振興普及部管内のほ場による。

(2) 適期刈取

積算気温だけでなく必ず籾の黄化状況を確認し、適期に刈取り作業を行ってください。

< 野 菜 >

(1) 施設栽培での高温対策

施設栽培では高温が続く限り、側面と妻面を開放して外気を取り入れ、施設内温度の低下を図りましょう。また、引き続き遮光、遮熱資材を活用しましょう。

(2) かん水

かん水は、朝夕の気温が低い時間に行いましょう。特に果菜類では、かん水チューブを用いた少量多回数が望ましい方法です。土壌乾燥が著しい場合は、通路散水により、地温上昇の抑制及び空中湿度の過乾燥防止を図りましょう。なお、畦間かん水を行う場合は、長時間水をためないように注意しましょう。

(3) 草勢の維持

きゅうり、トマト、さやいんげん等の果菜類やマメ類は、不良果や不良莢を早めに摘み取り、株への負担を軽減し草勢維持に努めましょう。また、老化葉の摘葉を行いましょう。追肥は、液肥やペースト肥料の土壌かん注を行うとともに、葉面散布を併用しましょう。

(4) 尻腐れ果対策

トマトの尻腐れ果対策として、かん水による土壌水分の保持に努めるとともに、症状の発生が予想される部位に直接カルシウム資材の葉面散布を行いましょう。

(5) 病虫害防除

かん水後は、一時的に作物の周辺が多湿となり、きゅうりの炭疽病や褐斑病、べと病、トマトの葉かび病、すすかび病等の病害が発生しやすくなります。また、乾燥時は、ハダニ類等の害虫類の発生が多くなりますので、農薬の使用基準を守って適期防除に努めましょう。

トマトでは摘芯時期を迎えています。今後、灰色かび病、オオタバコガ等による果実被害で収量が減少しないよう、防除を徹底しましょう。

(6) 鮮度保持

きゅうりでは、フケ果（ス入り果・先膨れ果）の発生が懸念されます。収穫物を直射日光に当てない等、品温の上昇を防ぎましょう。また、鮮度パックの使用等により品質保持を心がけましょう。

アスパラガスでは、とろけ症を発生させないため、害虫防除を徹底するとともに、調整場、調整器具は清潔に保ちましょう。

< 果 樹 >

(1) 樹種共通

ア かん水

通常は5～7日間隔で10aあたり20～30tかん水を実施しますが、乾燥が続く場合は、1回あたりのかん水量を調整し、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

草生園では雑草に水分を奪われてしまうため、草刈りを行いましょう。

ウ マルチ

草刈り後の刈り草や稲わらでマルチを行い、土壌水分の保持効果を高めましょう。

エ 新梢管理

徒長枝などの不要な枝はせん除して、水分の消費を防ぎましょう。ただし、過度のせん除は樹勢低下を招くため、切りすぎないように注意しましょう。

(2) りんご

ア 日焼け防止

気温の高い日が続いているため、日焼け果が多発しています。着色管理で葉摘みを行う場合は、日焼け果の発生状況を確認しながら数回に分けて行きましょう。反射資材の設置も日焼け果に注意して設置しましょう。

イ 病虫害防除

ほ場によってはりんごハダニの発生が要防除水準に達しています。高温乾燥により、さらにアブラムシ類、ハダニ類、カメムシ類等の発生が増える恐れがありますので、

農薬の使用基準を遵守して防除を行いましょ。

< 花 き >

(1) 施設栽培での高温対策

側面と妻面を開放し、換気扇を動かして換気を図りましょ。また、遮熱資材や遮光資材を活用し、施設内の温度上昇を抑制しましょ。なお、品目に応じ適切な遮光率とするよう留意してください。

(2) かん水

土の乾き具合を確認しながら必要に応じてかん水等を実施しましょ。特に定植後間もない場合は、手かん水を追加するなどし、適湿の確保と水分ムラの解消に努めましょ。かん水は、朝夕の気温が低い時間に行い、日中の暑い時間帯に水たまりが残らないように注意しましょ。

(3) 葉面散布

高温期は、カルシウム欠乏による葉先枯れ症状（トルコギキョウ、リンドウ、ユリ 等）や鉄欠乏による葉色の退色（ユリ、バラ等）といった生理障害が生じやすくなります。生育状況に応じて液肥の葉面散布を行い、養分補給を行いましょ。

(4) 病虫害防除

アブラムシ類等は、高温乾燥条件で発生しやすくなります。発生状況をこまめに把握するとともに、適期防除に努めましょ。害虫の発生源となるため、ほ場周辺の除草を行いましょ。

(5) 収穫・調整

収穫は日中の暑い時間帯を避けて行いましょ。暑い時期はバクテリアが増えやすくなるので、収穫・調整に使用するバケツ等の道具は定期的に洗浄しましょ。

< 畜 産 >

(1) 畜舎内の環境改善

畜舎の窓・扉を開放し、換気扇、送風機により送風、通風促進を図りましょ。また、畜舎入り口やダクトファンの前方に細霧装置による噴霧や、直接床に散水することにより、畜舎内の温度を下げるよう工夫しましょ。

扇風機やダクトファンにより、家畜に直接風を当て、家畜の体感温度の低下に努めましょ（牛に風速2m/秒の風を当てると体感温度を約8℃下げの効果があります）。また、飼養密度を下げることも、家畜の体感温度低下に効果があります。

(2) 飲水及び飼養の管理

牛は採食すると、ルーメン発酵による熱が発生します。質の劣る飼料はルーメン内の発酵熱を高めるため、良質で消化率の高い飼料を給与しましょ。また、早朝及び夜間などの涼しい時間帯での給与や、飼料回数を増やすなどの工夫をしましょ。

(発行：福島県会津農林事務所農業振興普及部 TEL0242-29-5308)